

「登山者位置検知システムの利用モデル評価」第1回評価会を開催

総務省北陸総合通信局（局長 吉武 久（よしたけ ひさし））は、平成28年9月16日（金）、「登山者位置検知システムの利用モデル評価」の第1回評価会を富山国際会議場にて開催しました。

同システムは、山小屋などに設置される検知者端末機と登山者が装備する登山者端末機を用いて、遭難者（登山者）からのGPS位置情報が、山小屋等の検知者端末機の地図上に正しく表示できるとともに、遭難者が自ら操作できない場合でも、検知者端末機からのリクエストによって登山者端末機を起動し、GPS位置情報を正しく表示することができるものです。

評価会では、北陸総合通信局松澤無線通信部長のあいさつの後、本システムの有用性を立山周辺の山岳の携帯電話の不感エリアで機能面・利用面から実証・評価するという本会の開催趣旨を確認し、座長に富山県立大学名誉教授の岡田敏美氏を選出しました。山岳警備隊からは山岳遭難の現状と事例の報告を行い、続いて富山県立大学から富山県立山で行う同システムの実証試験の具体的な実験場所や実験項目などについての説明がありました。構成員からは「端末機は小型・軽量・安価が普及の必須条件」、「小型化には利用シーンを絞った仕様にすべき」などの意見が出されました。

また、同システムのデモンストレーションでは、開発された登山者端末機を会議場周辺で移動させ、その位置情報が地図上に正しく表示されることを確認しました。

北陸総合通信局では、今後実施される富山県立山での実証試験や評価会において、同システムの有用性を示すことで社会実装を促し、山岳遭難者の迅速かつ確実な救助に寄与していくこととします。



冒頭あいさつする
北陸総合通信局
松澤無線通信部長

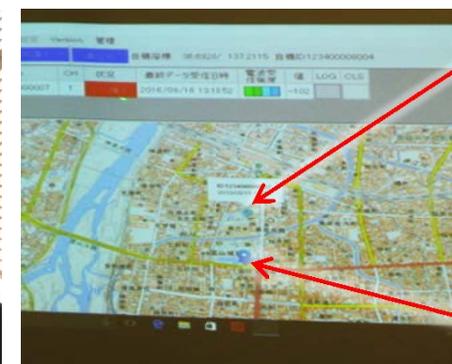


アンテナ内蔵のリュックと
登山者端末機

登山者
端末機



登山者位置検知システムの
デモンストレーション



デモンストレーションにおいて
地図上に登山者端末機の位置を
表示

登山者
端末機
の
位置

富山
国際
会議
場
の
位置